

感 染 症 科

概 要

部 長：西 岡 弘 晶（総合内科兼務）

ス タ ッ プ：4 名

感染症科は、専従スタッフ3名を中心にし、専攻医、初期研修医と一緒に、感染症診療および感染管理を幅広く担っています。外来診療、各科入院患者の感染症コンサルテーション、血液培養陽性症例のフォローアップ、HIV 感染症や輸入・熱帯感染症の診療、感染管理業務などを日常的に行っています。また、総合内科のカンファレンスなどにも参加し、多職種・多診療科と連携しながら感染症患者のマネジメントに携わっています。

特 徴

当院は神戸市の中心的な急性期病院であり、高度医療を担うとともに、一類感染症病床を有しています。新興・再興感染症を含む保健行政的対応が必要な感染症診療においても、神戸市の中核的役割を果たしています。豊富な市中感染症症例に加え、造血幹細胞移植後や化学療法中などの免疫不全患者における感染症、輸入感染症、HIV 感染症などを幅広く経験することができます。特に輸入感染症と HIV 感染症の外来診療では感染症科が中心的な役割を果たしています。また、院内微生物検査室との連携が非常に密であり、迅速かつ円滑な情報共有が可能です。感染症診療と感染管理を一体的に経験することで、院内全体の感染症動向を俯瞰しながら診療にあたることができます。

研修プログラムの概要

感染症専門医は、将来的にコンサルタントとして全診療科の患者を対象に診療を行うこととなります。対象は新生児期から高齢者まで幅広く、免疫抑制療法中や造血幹細胞移植後などの免疫不全患者、術後感染症など多岐にわたります。そのあため、専攻医研修（後期研修）は、感染症診療の基盤となる「総合的な内科力」を養う極めて重要な時期であると考えています。

本プログラムでは、感染症科に固定した研修ではなく、総合内科を中心に研修を行いながら、毎年一定期間感染症科をローテーションする合同プログラムを採用しています（期間は相談可能）。総合内科での幅広い診療経験を基盤としつつ、感染症科では特殊感染症やコンサルテーション症例を豊富に経験できます。希望に応じて、総合内科、感染症科以外の診療科のローテーションや院外研修にも柔軟に対応します。

さらに、定期的なジャーナルクラブ、神戸市内・近畿圏・全国で開催される各種カンファレンスへの参加、学会発表などを通じ、症例から疑問点を抽出し、文献検索を行い、課題を深く掘り下げる姿勢を養います。加えて、プレゼンテーション能力や論文作成能力の習得も重要な目標としています。

A 基本的研修目標

感染症科では、院内入院患者および外来患者の感染症コンサルテーションが主な業務となります。内科研修で培った基本的な病歴聴取や身体診察、情報収集能力を基盤に、感染症診療の原則に基づいた適切な評価・提案を行い、患者及びコンサルティー双方にとって最適な治療方針を提示できる姿勢を身につけることを目標とします。

また、当院では感染症診療と感染管理業務を一体的に行っていることが大きな特徴であり、感染対策チーム活動を通じて、感染管理の実践的知識とその重要性を学びます。

B 研修体制

感染症科指導医のもとで研修を行います。日常診療では、感染症コンサルテーション症例や血液培養陽性患者の診療を中心に担当し、診察後には指導医とのディスカッションやカンファレンスを通じて方針を検討します。その後、主治医と密に連携を取りながら診療を進めます。

また総合内科カンファレンスにも参加し、症例の共有やフィードバックを通じて、総合診療と感染症診療の双方の視点を学びます。

C 到達目標

- ・ 感染症の基本的な経過を理解できる。
- ・ 感染症との鑑別が必要な非感染症疾患について診療できる。
- ・ 微生物学的検査や画像検査などを適切に解釈できる。
- ・ 患者の状態や問題点を的確に把握し、自ら考えたマネジメントを論理的にプレゼンテーションできる。
- ・ HIV 感染症、輸入・熱帯感染症など感染症特有の疾患について基礎を習得する。
- ・ 免疫不全患者における感染症診療の基礎を理解する。
- ・ 抗菌薬の特性、薬物動態・薬力学を理解し適切に使用できる。
- ・ 感染症の原因微生物について理解を深める。
- ・ 細菌検査室と良好な連携を築き、検査情報を診療に活用できる。
- ・ 理想的な抗菌薬選択が困難な状況における現実的なマネジメントを学ぶ。
- ・ 症例から生じた疑問を適切な情報源を用いて調べ、エビデンスを踏まえて考察できる。
- ・ 抗菌薬適正使用（Antimicrobial Stewardship）の実践を学ぶ。
- ・ 感染症コンサルタントとして必要な態度・思考法を身につける。
- ・ 多職種と円滑なコミュニケーションをとり、チーム医療を実践できる。
- ・ 感染症診療や感染管理における倫理的課題についても問題意識を持てるようになる。

評 価

入院患者診療、外来診療、各種カンファレンスなどにおいて、医学知識、臨床推論、判断力、医師としての姿勢、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、教育能力、リーダーシップなどを総合的に評価します。指導医が日常診療の中で随時フィードバックを行、継続的な成長を支援します。

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

西 岡 弘 晶 : nishioka@kcho.jp

土 井 朝 子 : asakodoi@kcho.jp